



令和元年度上半期、大宗漁業の加入（速報値）がまとまる さんま棒受網・秋さけ定置・ほたて貝等養殖で加入実績減少、漁業施設（秋さけ定置漁具）は伸長

本年度は「ぎょさい普及推進全国運動」「ぎょさい」で安心「ぷらす」で万全」の最終年であり、全道各地区において加入推進に取り組んだ結果、上半期の大宗漁業である「さんま棒受網漁業」、「秋さけ定置漁業」、噴火湾地域等の「ほたて貝等養殖業」のぎょさい・積立ぷらす並びに「漁業施設（秋さけ定置漁具）」のぎょさい加入実績がまとまりました。

【さんま棒受網漁業】
ぎょさいの共済金額（契約額）は、根室地区でがんばる漁業終了による復活加入、稚内地区で新規加入、釧路・根室地区で契約割合の引上げがあり、根室・稚内の二地区では前年度より一億二千万円増加しましたが、補償水準（共済限度額）の低下や休漁・廃業による減少もあり、全道集計では前年度より五百万円減の八十八億三千五百万円、積立ぷらす（漁業者積立額）は一百万円減の一億三千八百万円の実績となりました。

【秋さけ定置漁業】
ぎょさいの共済金額は、小樽・室蘭・釧路・根室・北見・稚内地区で、近年の来遊不振が影響し補償水準が低下したことや休漁等により前年度を下回り、一部の地区で契約割合の引上げ等が図られましたが、全道集計では前年度より二十億七百万円減少し、三百四十五億六千万円の実績となりました。一方、積立ぷらすはクロマガゴ強度資源管理による払戻判定額の下げ止めが前年度同様措置されたこと等により七億八百万円増加し、三十五億八百万円となりました。

1. さんま棒受網漁業 ぎょさい・積立ぷらす 加入実績 (単位：百万円)

地区	令和元年度		平成30年度		増減 (R1-H30)	
	共済金額	積立金額	共済金額	積立金額	共済金額	積立金額
室蘭	326	5	362	5	△ 36	0
日高	503	7	496	7	7	0
釧路	2,701	39	2,765	41	△ 64	△ 2
根室	5,273	85	5,185	84	88	1
北見	0	0	32	2	△ 32	△ 2
稚内	32	2	0	0	32	2
合計	8,835	138	8,840	139	△ 5	△ 1

2. 秋さけ定置漁業 ぎょさい・積立ぷらす 加入実績 (単位：百万円)

地区	令和元年度		平成30年度		増減 (R1-H30)	
	共済金額	積立金額	共済金額	積立金額	共済金額	積立金額
小樽	577	50	593	37	△ 16	13
桧山	116	8	111	8	5	0
函館	782	76	773	65	9	11
室蘭	1,764	133	1,797	124	△ 33	9
日高	3,346	286	3,228	223	118	63
釧路	2,834	373	3,379	251	△ 545	122
根室	7,755	881	8,416	671	△ 661	210
北見	13,654	1,360	14,382	1,157	△ 728	203
稚内	3,427	310	3,615	233	△ 188	77
留萌	305	31	273	31	32	0
合計	34,560	3,508	36,567	2,800	△ 2,007	708



3. ほたて貝等養殖業 ぎょさい・積立ぶらす 加入実績 (単位：百万円)

地区	令和元年度		平成30年度		増減 (R1-H30)	
	共済金額	積立金額	共済金額	積立金額	共済金額	積立金額
小樽	61	7	61	6	0	1
函館	5,478	312	5,967	310	△ 489	2
室蘭	1,131	109	1,190	114	△ 59	△ 5
北見	251	0	238	0	13	0
合計	6,921	428	7,456	430	△ 535	△ 2

【ほたて貝等養殖業】
ぎょさいの共済金額は、渡島噴火湾地区の八雲町漁協でもうかる漁業終了による復活加入・森・落部・八雲町・長万部漁協及び室蘭地区のいぶり噴火湾漁協で契約割合の引上げが図られました。近年多発しているへい死の影響による補償水準の低下や休漁・廃業等による減少もあり、全道集計では前年度より五億三千五百万円減少し、六十九億二千一百万円、積立ぶらすは二百万円減少し、四億二千八百万円の実績となりました。

4. 漁業施設（秋さけ定置漁具）ぎょさい加入実績 (単位：百万円)

地区	令和元年度		平成30年度		増減 (R1-H30)	
	件数	共済金額	件数	共済金額	件数	共済金額
小樽	39	181	37	179	2	2
桧山	2	20	2	16	0	4
函館	0	0	1	1	△ 1	△ 1
室蘭	11	114	11	115	0	△ 1
日高	15	207	15	211	0	△ 4
釧路	66	1,167	71	1,230	△ 5	△ 63
根室	46	655	46	657	0	△ 2
北見	133	2,495	118	2,210	15	285
稚内	2	14	2	14	0	0
留萌	4	38	4	38	0	0
合計	318	4,891	307	4,671	11	220

【漁業施設（秋さけ定置漁具）】
漁業施設共済（秋さけ定置漁具）については、函館・釧路地区で休漁等による減少がありましたが、北見地区の斜里第一漁協で新規加入があり、件数で十五件、共済金額で二億八千五百万円増加し、全道集計では前年度より件数で十一件、共済金額で二億二千万円増加し、三百十八件、四十八億九千一百万円の実績となりました。



「漁業者の経営安定のために」第十二回

平成二十三年からスタートした「漁業収入安定対策」（ぎよさい十積立ぶらす）は九年目に入っておりますが、この現状をわかりやすくお伝えする連載の第十二回目は、本年六月から北海道信漁連の代表理事常務に就任し、「ぎよさい・積立ぶらす」北海道推進協議会の委員となられた須崎勝則氏に、所得補償という観点から制度の意義と効果、そして収入安定化の大切さを本道系統の信用部門を担当する立場からお話し頂きました。

「積立ぶらす」は力強い漁業経営づくりの切り札

北海道信漁連 代表理事常務 須崎勝則



私が育った小さな漁村は、昆布漁業が盛んな地域でしたが、五十年前漁業者の暮らしは豊かだったのでしようか。

昆布の出漁日には小学生は学校を休み昆布干しの手伝いをし、お父さんたちは冬は各地に出稼ぎに出ていました。

豊漁で喜べば価格が暴落、翌年の繁茂に期待をすれば流水被害、燃油の高騰など漁業は豊漁・不漁、価格変動、自然災

害等により、極めて収入・所得が不安定な職種と位置付けられてきました。

そんな不安定な経営を、相互扶助精神・協同運動の旗のもと、漁業者・漁協・系統団体が丸となり、販売・信用・共済それぞれにおいて地道な努力を積み重ね乗り越えてきました。

信用事業においては、漁家の生活改善で毎日わずかな貯金に心がける「婦人月掛貯金」から始まり、不漁・災害に備える「備荒貯金」の浸透を経て、全道漁協みな貯金運動へと進展してきました。全道の漁業者の貯金が集中することにより、漁協系統金融機関の信頼感が高まり、それはやがて漁業近代化資金等制度資金の創設に大きな力を発揮してきました。

今年で六十回目を迎えた、全道漁協みな貯金運動は、そうした先人の方々の努力に対し、感謝の気持ちを伝える運動として取り組んでいます。

一方、漁業共済事業は、全国の漁業者が総力を挙げて一大運動を展開し、昭和三十九年に「漁業災害補償法」が制定され、共済組合の事業展開のもとに、長年にわたって漁業者の経営安定に大きく寄与してきました。

しかしながら、燃油の高騰等経済情勢の変化により、更なる所得補償の対策が求められる中で、漁業収入安定対策「積立ぶらす」が導入されました。

漁業共済制度の活用と資源管理をセットにした点に大きな特徴があるこの対策は、国による補てん割合の拡充とともに、漁業経営の安定、水産資源の保護にも極めて重要な施策となっています。

また、漁業経営の安定とともに、道内漁業者の長年の課題となっていた、漁船の老朽化と担い手対策については、「浜の担い手漁船リース事業」の創設より、大きな転換期を迎えています。国の補助のもと、漁船を資産として取得するリース法人に対しては近代化資金の融資と基金協会の保証、借受者は、資源管理計画とともに、漁獲共済・積立ぶらすの加入がセットされており、まさに漁業者と行政・漁協・系統団体が一体とならなければ成り立たない制度となっています。

この制度を更に継続し成熟させるため、漁獲共済と積立ぶらすの加入促進は、系統組織が足並みをそろえ唱えていかなければならないものと考えています。

安心
経営

・ぎょさい普及推進全国運動

・平成29年4月～平成32年3月

ぶらぎよ らぎよ すざい で万全しい で安心



 漁業共済組合／連合会・(後援)水産庁